



「多摩のメカイ」づくり

メカイづくりの始まり—なな山緑地の動き—

相田幸一

なな山緑地の東の山は、人の背丈を越えるシノダケ（アズマネザサ）に覆われています。

シノダケは、昔は多くを農業用支柱、または子どもの遊び道具などに使われていましたが、近年は邪魔者となり大切には扱われなくなりました。

しかし、多摩地域では大切な利用方法がありました。それは「メカイ」（ザル、カゴと一般的には言われます）の材料としての利用です。八王子の宇津貫地



相田幸一作メカイ

区に発祥し、現在の多摩市を中心にした南多摩地域で栄えた「多摩のメカイ」は伝統工芸品でした。過去形でしか表現できないのは地域産業として成り立っておらず、現在は伝統工芸と認定されていないためです。メカイは江戸時代中期から昭和の30年代まで大いにつくられ、台所用、魚屋用、養蚕用、茶の産地用、料理屋用など各方面で使われていました。プラスチック素材が出来て消えてゆく運命になったのですが、使いやすさと機能性、自然素材の深みのある美しさは卓越しています。

メカイの消滅と時を同じくして、素材のシノダケ（アズマネザサ）も、多摩地域の大規模宅地開発などで根絶やしにされてきました（ここで断りを一言。同じものですが、メカイの材料としてはシノダケ、自生する植物としてはアズマネザサと呼ばせて下さい）。雑木林を維持管理しているボランティア活動でもまず取り組むのが、このアズマネザサ退治でした。しかし、東の山が「なな山緑地の会」の活動エリアになった際、このアズマネザサを活用できないかとの思いに到りました。東の山のアズマネザサはこれだけの規模で自生している最後の場所かもしれない、何とか



東の山のアズマネザサ

残したいという思いに駆られていた2012年10月、市の市民活動支援課が森木会に、シノダケを採取できる場所はないかと問い合わせしてきました。当会としては双手を挙げて採取協力を申し出、市の職員と関係者の現地視察の結果、採用が決まったのです。5回シリーズの「多摩のめかいづくり」講座の材料として、講座

でのシノダケ採取とヒネづくりの体験実習の場にもなりました。2013年2～3月の講座は受講生が募集開始30分で予定数に達し、5回の講習は大好評で終了、当会は大いに感謝されました。講座終了後に「多摩めかいの会」が立ち上がり、活動を続けています。更に2014年2～3月にはグリーンボランティア連絡会の主催で、前年同様に「多摩のめかいづくり」講座が開かれ活況を呈しました。当会としても全面協力をしました。また、当会では昨年10月からクラブ活動として動き始め、今は小さな試みですが、やがては、伝統工芸を支える活動にしていきたいと考えています。

●多摩地域のメカイとは

多摩地域のメカイはヒネづくり、編み方、仕上げにそれなりに特徴を持っています。

シノダケは1年物を冬場（11月～3月）に採取し、太さに応じて4つ割、6、8つ割にする。ヒネヘギは1週間程度以内にすませるのがよさそうです。ヒネにしておけば長期間保存でき、使う時に水に浸せば柔らかく、使いやすくなります。

メカイの調査・研究に力を傾けている恵泉女学園大学の篠田先生によれば「ヒネづくり2年」だそうで、メカイの基礎材料のヒネが上手くできるにはそれだけ数をこなさないといけないということです。製品の出来具合は、まさにヒネの出来具合にかかっています。

編み方は、手順を踏めば比較的容易に作業を進められ、ソコフミ・横マワシ・フチアテ・フチマワシ・スジ・シリカガリなどの工程があります。

●アズマネザサの育成

今後、最も留意しなければならないのは、保全・育成でしょう。昔は多摩丘陵周辺はいたるところアズマネザサに覆われていました。しかし今は先にも触れたように僅かな限られた場所だけになってしまいました。そこで、どのような管理がメカイに適したシノダケの成育を助けるか、太いもの、細いものの生え分けが可能なのか。マダケ等の生態とも比べながら、試行していきたいと思っています。



なな山での「多摩めかいの会」の活動



「多摩のめかいづくり」講座

南鶴牧小学校 冬の観察会

1月7日(火) 晴れ。参加者：小学校教員4名。保護者1名。児童17名。なな山スタッフ：相田、高澤。

子どもたちの冬休み最終日。年が明けたばかりということで、山の仕事始めの神事から行いました。相田さんから説明を受け、心地よい陽の光が溢れる中、気持ちを整えて祈ります。

このあとは落葉掃きです。落葉掃きにも意味があります。学びながら山の仕事を体験しました。掃くことに一生懸命な子どもたち、学年の枠を越えて協力して行います。素敵な姿でした。

仕事が一段落して箕(み)で斜面を滑走します。それを合図のようにして、ターザンロープ、ブランコ、ハシゴで遊び出しました!!

日頃はゲーム機器ばかりで外で遊ばない子どもが増えました。友人との会話は目を合わせず画面越しです。それがこのなな山では友達と目を合わせ声を掛け合い、心を通わせ工夫して遊んでいます。瞳をキラキラさせた子どもたち。好奇心が新たな発想を生みます。ハシゴはこわごわ登る子どもが多かったけれど、繰り返し挑戦して少しずつ上を目指す姿が印象的でした。「上に登った時の達成感が最高♪」繰り返し挑戦したからこそ達成感も倍増したのだと思います。昼食を食べ、午後は工作を中心に活動しました。ノコで杉を切り工作をしたり、篠竹で弓を作ったり…

なかなか思い通りに作れなくて悪戦苦闘していましたが、諦めずに作り上げ、皆で的当てをした時間はとても楽しい時間でした。

時間が足らず「もう帰るの～？まだ遊びたい!!」という声もありました。(楽しかったからこそその声ですね♪) 次回もう少し時間があるといいですね。

瞳をキラキラさせた子どもたちの姿に山も喜んでいました。落ち葉が山の栄養となるように、子どもたちの笑い声もまた、春を迎えるための栄養素なのかもしれませんね。

これからも、たくさんのお子どもたちがなな山に遊びに来てくれたらいいなあと思いました。(高澤)



倉沢里山を愛する会の植物観察会

4月19日(土) 10時30分～12時、倉沢里山を愛する会の23名がなな山を訪れ、植物観察会が行われました。なな山からは高木会長、相田さん、中原が参加しました。肌寒い日でしたが、前日の雨も上がり、時折ウグイスの声が聞こえ、新緑の美しいなな山でした。

高木会長の挨拶のあと、相田さんの解説で散策がはじまりました。広葉樹の西の山、常緑樹の中の山、アズマネザサの東の山の植生の違いを観察しました。あらかじめマップを配ってあったため、より良く体感できたようでした。西の山ではニオイタチツボスミレの香りを嗅いだり、チゴユリの写真を撮ったり、広場ではコナラの雄花がたくさん垂れ下がっている中から小さな雌花を探して、興味深げに観察していました。参加者の皆さんは、手入れの行き届いたなな山のたたずまいに感心し、倉沢の近くにこんな里山があることに驚いていました。(中原)



平成25年度なな山緑地の会総会開催

3月23日(日) 9時よりUR百草団地第二集会所で、平成25年度なな山緑地の会総会が開催されました。出席18名と1団体、委任状17名、計35名と1団体(過半数)で総会は成立。議長に隅田氏を選出しました。

平成26年度役員改選では会計監査に松本学さん、記録担当に高澤愛さんを選任し、他は留任することで異議なく承認されました。

平成25年度活動報告、会計報告も異議なく承認されました。平成26年度活動計画案では、サクラ苗の育成方法について、苗床の場所を決めて苗を計画的に育成する件、東の山のアズマネザサの保全と育成について別途議論する件、保全技術情報を蓄積する方法を工夫する件等について追加意見があり、他は異議なく承認されました。平成26年度予算案も意義なく承され、規約改正案、弔事規程案についても原案通り異議なく承認されました。

質疑応答(要望事項 連絡事項など)では、林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金について質問があり、相田さんからその内容と当会の対応について説明がありました。住崎氏の閉会のことばで10時30分、無事終了しました。(鎌田)



10周年記念の遠足が催されました

1月18日(土)に10周年記念イベントの遠足が催されました。当日の天気予報では曇りで肌寒く雪もちらつくかもとのことでしたが、幸いなことに予想が外れ暖かな冬晴れの日でした。一本杉公園にリーダーの相田さんを含めて9人の会員が集まりました。相田さんから今日の予定コース等の説明があり、9時30分に出発。鎌倉旧街道から一本杉公園を経由して小野路へ向かいました。昨年9月にできた小野路宿里山交流館で一服し、小野神社一六地藏一万松寺谷戸一道祖神を経て小野路城址で昼食を取りました。午後は小町井戸を見て展望の良い尾根へ向かううち、予定のコースを外れたようでしたが、そのまま急坂を下って進むと、会員の馬場さんがお仲間と竹炭を焼くために竹の切り出しをしている現場にぶつかりました。全くの奇遇でした。そこから奈良ばい谷戸を通って予定コースに戻り、浅間神社一石仏群一よこやまの道を経て、元の一本杉公園に到着。予定の14時30分ぴったりでした。とても良かったと参加した会員から好評をいただきました。途中にはスミレや水仙の花が早くも咲いていて小さい春を見つけられた楽しい一日でした。(鎌田)



深めよう会員の絆

リレー随筆

表情のある日本語

高澤 愛

私の好きな言葉「こもれび」。

意味はご存知の通り木々の間や枝の間から陽射しが漏れる光景です。実はこの「こもれび」という言葉、日本独特の言葉なんだそうです。つまり「こもれび」を英語などで表す場合は単語がないので文章で説明するということです。他にもそういった言葉はあります。

花吹雪、うららか、緑陰、日だまり、翠雨…

これらは春の情景を表す言葉ですが、どれも自然を身近なものとして愛でるものだと思います。

「春山淡冶にして笑うが如く、夏山蒼翠にして滴るが如く、秋山明浄にして粧うが如く、冬山惨淡として眠るが如く」という中国の詩に由来して俳句の季語「山笑う」ができたそうです。木々が芽吹きにかかる春山から落葉する冬までの山の姿を「山笑う」「山眠る」などと表すことで、とても表情豊かな山を想像することができます。俳句という世界一短い詩の言葉、日本語だからこそその美しい言葉、日本人だからこそ楽しめる表情のある言葉だと思います。

さて、お気づきでしょうか…?今回ご紹介した美しい日本語、どれも「なな山」にぴったりな言葉だと思いませんか?なな山に携わる人の表情がそのまま表れたこの里山、これからは皆さんとなな山と手を繋いでいきたいと思う私であります。このような話をすると文系のようなのですが、特技はスキー、バスケ、やり投げ、

昨年度は30代女子

の部で50m走

第4位(300

人中)と体育

会系です

(^_^)ゞ



なな山日記 (活動・観察記録)

とたに えま

No.228 2013年11月24日(日) 晴れ 気温17℃

参加者52人(来賓、会員)

なな山緑地の会10周年記念式及びバーベキュー会の開催。

●内容/11時30分開始。高木会長挨拶、阿部多摩市長の祝辞に続きバーベキューを始める。肉、野菜を焼き、おむすびや果物を食べたあと、相田さん

の音頭で中締め。13

時10分より、相田さん

さんによるなな山の散

策、14時30分解散。



No.229 2013年12月8日(日) 曇り 気温6℃ 参加者29人

畑再開予定の知らせ。毎年恒例の「おやじの会」の準備。

●作業/西の山全体の草刈り。落葉掃き。堆肥の運び出し。道路沿いの清掃。植物養生。おやじの会メンバーはターザンロープの取り付け。



なな山日記 (活動・観察記録)

とたに えま

<p>No. 230 2013年12月15日(日) 晴れ 気温9℃ 参加者 171人 (生徒、保護者、会員) 多摩第二小おやじの会主催「なな山で遊ぼう2013」開催。 ●内容/なな山の材料でリース作り、弓矢作り、丸太切り。ターザンロープ、ブランコ、ハシゴ登り、落葉滑りなどで遊び、自然の中で遊ぶ楽しさ、自然の大切さを体感。</p> 	<p>No. 231 2013年12月22日(日) 晴れ 気温13℃ 参加者 22人 今年最後の活動、焼鳥と恒例の豚汁で活動納め。 ●作業/山全体のゴミ拾い、道路沿いの落葉掃き、シガラの整備、看板更新、5番目の倉庫組み立て。 ●観察/カラタチバナ、シロミノマンリョウの実が美しい。</p>  
<p>No. 232 2014年1月7日(火) 晴れ 参加者 19人 (生徒、保護者、会員) 南鶴牧小学校「冬の観察会」開催。 ●内容/山の仕事始めの神事に参加。落葉掃きを体験。ターザンロープ、ハシゴ登り、ブランコで遊ぶ。これらを通して山仕事を味わい、自然の中で遊ぶ楽しさを体感し、協力すること、挑戦すること、達成感を感じることができたと思われる。</p> 	<p>No. 233 2014年1月12日(日) 晴れ 気温11℃ 参加者 25人 年初めの神事。「なな山だより30号」配布。 ●作業/山全体の観察とゴミ拾い。落葉掃き。倉庫整理。なな山シールの検討。 ●観察/オモト、キチジョウソウ、センリョウ、マンリョウ、シロミノマンリョウの実が見られた。シュランの花芽が上がってきた。</p>  
<p>No. 234 2014年1月26日(日) 晴れ/曇り 気温14℃ 参加者 19人 暖かな活動日和。各自思い思いの仕事で大きな成果。 ●作業/住宅付近のコナラ伐倒。中の谷奥のスギ、ヒノキなど3本伐倒。畑の畝番号付杭打ち。机修理。倉庫整理。 ●観察/コナラのどんぐりが根を出していた。</p> 	<p>No. 235 2014年2月23日(日) 曇り/晴れ 気温8℃ 参加者 18人 2週続いた大雪後の活動。雪で倒された樹木の処理。 ●作業/折れた木の伐倒。傾いた木を起こす作業。スギ材の皮むき。ヤマザクラの伐倒。 ●観察/寒さの中でもホトケノザ、タネツケバナが咲いていた。シュランの花芽が大きくなった。</p>  
<p>No. 236 2014年3月9日(日) 晴れ 気温4℃ 参加者 24人 新入会員2人。花が咲き出し春を感じる一日。 ●作業/林内散策。中の谷のスギ、ヒノキを伐倒。畑でジャガイモの植付け準備。クヌギ苗の掘り起こし。梅の木の移植。 ●観察/フキ、ヒメオドリコソウ、アセビの花が咲き、スギの雄花は花粉でパンパン。</p> 	<p>No. 237 2014年3月23日(日) 晴れ 気温9℃ 参加者 22人 25年度総会無事終了。シイタケ大豊作。 ●作業/シイタケ菌打ち。ジャガイモ植付け。耕耘機かけ。 ●観察/移植したボケの花が咲いた。オオアラセイトウ、ノゲシ、カントウタンポポの花が咲いていた。</p>  

お知らせ
 「なな山緑地の会 活動・観察記録」の担当が4月より戸谷恵麻さんから、高澤愛さんに替わりました(当分の間、戸谷さん、鎌田さんが補佐します)。
 戸谷さん10年間、本当にありがとうございました。引き続きホームページを宜しくお願い致します。(編集部)

なな山だより 第31号 2014年5月11日発行
 発行 なな山緑地の会
 発行責任者 高木直樹
 住所 多摩市和田 1394-13
 ホームページ <http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>
 編集委員 鎌田文雄 中原君代 戸谷恵麻